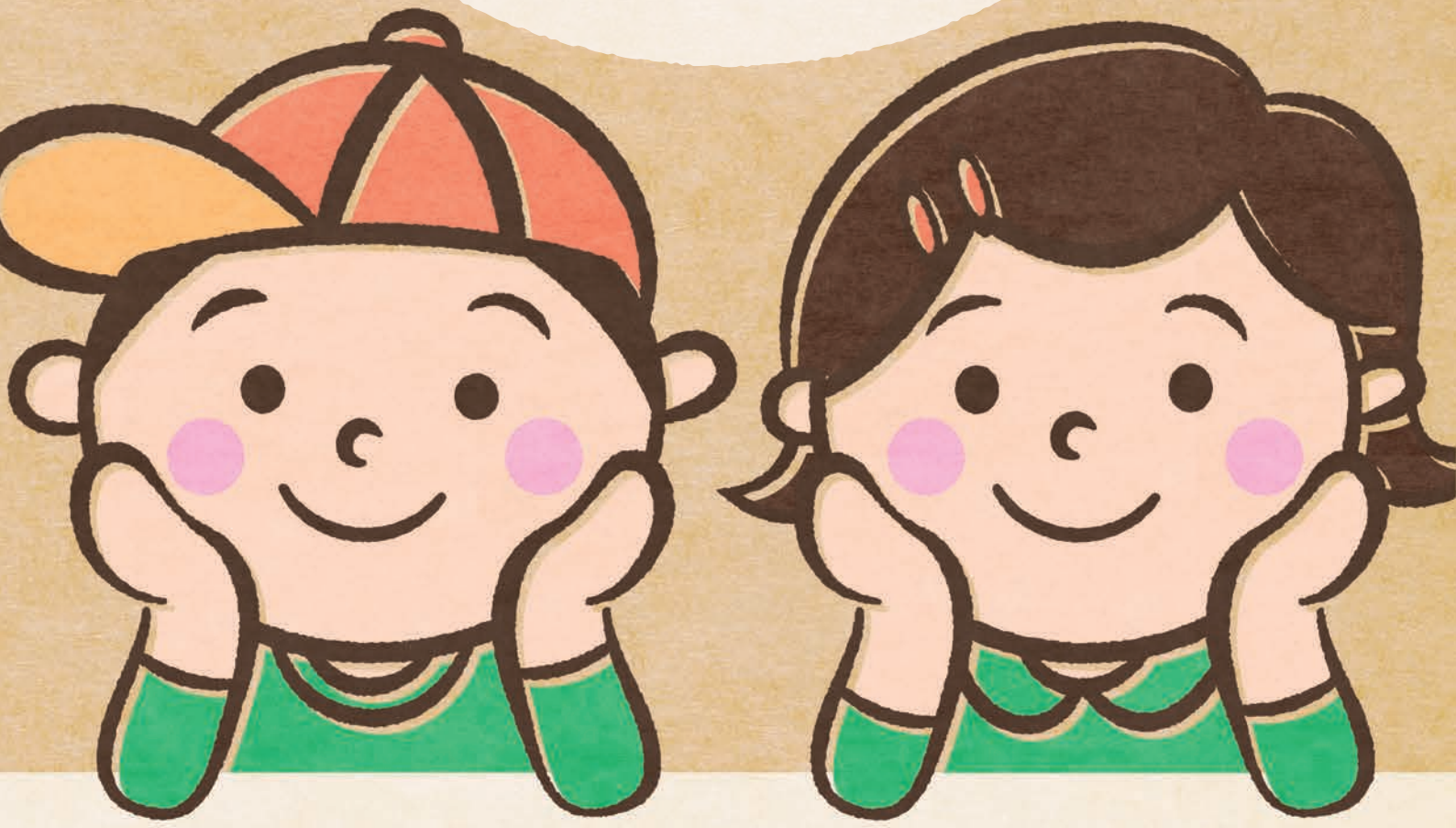
堺市子ども食堂ガイドライン

地域における食を通した子どもの居場所の作り方



堺市
SAKAI CITY

地域に求められる子ども食堂をつくるには

地域のニーズに寄り添う食を通した子どもの居場所がもつ可能性

地域に住む子どもたちに無料もしくは実費程度で食事を提供するいわゆる「子ども食堂」が、全国に※約300カ所あります。（※平成29年3月時点）

ひとりで過ごすことが多い子どもの居場所、学校の勉強についていけない子どものための学習支援の場、歯磨きなどの習慣がない子どもたちに歯磨きの習慣を伝える場など、食を通した子どもの居場所の必要性が広まり、全国で開設が急増しています。

「食」は誰にとっても身近であり、場所と人が揃えば、気軽に始めることができる活動です。

堺市子ども食堂ガイドライン

地域における食を通した
子どもの居場所の作り方

目　次

地域に求められる子ども食堂をつくるには

4　現代の“子ども”はどういう状況？

5　子ども食堂の種類は？
地域の状況は？

6　子ども食堂の16事例

16　準備チェックリスト

18　食提供チェックリスト

20　ボランティアの力を生かす

22　見逃したくない子どもからのサイン

24　地域の福祉活動をサポートする
堺市社会福祉協議会

25　これからつくりたい未来

26　子どものSOSつなぎ先一覧

「子どもたちに栄養をしっかり摂れる食事を提供したい」「みんなで食べる食事の楽しさを知ってほしい」これはあくまで大人の「やりたいこと」です。その思いはとても尊いことですが、それを押し付けることは子どもたちを余計に孤独に追いやるかもしれません。

「子どもたちのありのままを受け入れる」そういった子ども食堂が増え、さまざまな家庭環境の子どもたちが地域の中で安心して健やかに成長できるよう、このガイドラインを作成しました。

子ども食堂をはじめる前に知っておきたい3つのこと

今の子どもたちが抱える「しんどさ」とは何でしょう？
現代の“子ども”と子ども食堂について、知っておきましょう。

POINT

現代の〝子ども〟はどういう状況？

家庭環境が多様化・複雑化する中、子どもの貧困が課題になっています。「昔はみんな貧乏やった」は年配の方によく言われる言葉です。

貧困には2種類あり、絶対的貧困（生活に最低限必要な食料・生活必需品を購入するお金のない状況）と相対的貧困（その国や地域において一定水準を下回る所得しか得ていない状況）があります。

今、日本で課題になっている貧困は主に相対的貧困です。「周りの人にとっては当たり前の生活」が自分にはできないという状態は、子どもたちに精神的な影響を与えます。また、相対的貧困は見えにくいという問題があります。

今の〝子ども〟を知り、子どもの実態を把握したうえでかかわることが大切です。

生活習慣が不規則で親に向き合ってもらえない

家庭でごはんが用意されず、朝も起こされない。歯磨きの習慣もなく、歯がボロボロ。不登校気味。

両親が共働きのため1人で食事をする機会が多い

家族団らんの機会が少ない。お金をもらい、菓子パンやコンビニ弁当でお腹を満たすが、心は満たされない。

子どものためのお金を親が使い込んでいる

外見からはわかりにくい。ギャンブル等にお金を使い込み、子どもの教育や体験学習の機会が乏しい。

データでみる子どもを取り巻く状況

- 不登校（堺市） —— 小学生148人、中学生592人※1
- ひきこもり（全国） —— 1.57%※2
- ニート（全国） —— 2.2%※3
- 児童虐待ケースとして見守っている児童数（堺市） —— 2,838人※4

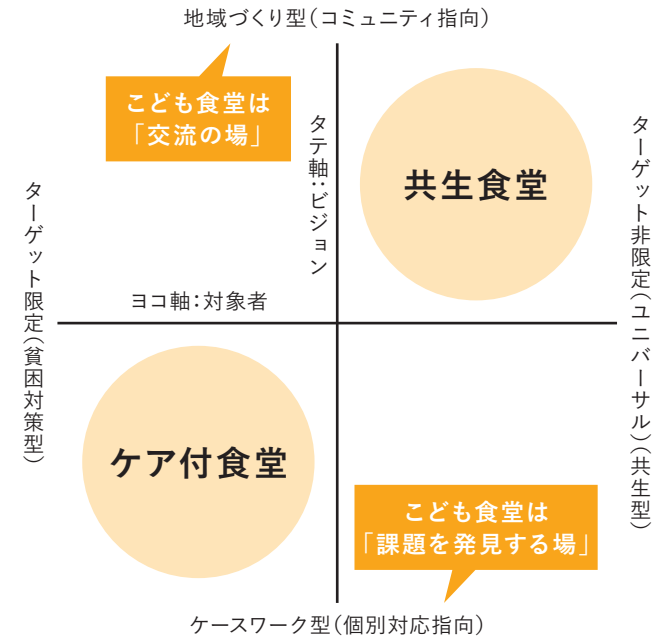
※1　堺市教育要覧（平成27年）
※2　内閣府「若者の生活に関する調査」（平成27年）
※3　総務省「労働力調査」（平成28年）
※4　堺市要保護児童対策地域協議会（平成27年）

POINT

子ども食堂の種類は？

子ども食堂は、大きく2種類「共生型」と「ケア型」があります（※子ども食堂の名付け親といわれる方のイメージは共生型です）。どちらが地域にとって必要かを調べ、立ち上げる必要があります。

ケア型の子ども食堂を実施する際は、子どもの課題に詳しい専門家がスタッフとしてかかわり、子どものサインに気づき、学校や関係機関と連携して支援につなげることができる体制が必要です。



引用元：「こども食堂」の混乱、誤解、戸惑いを整理し、今後の展望を開く（湯浅誠）

POINT

地域の状況は？

子ども食堂をはじめる前に、「地域のことを知り、ニーズを確認する」2つのステップがあります（左図参照）。このプロセスを踏むことで、子どもだけを対象にする場にするのか、年配の方も集える場にするのか、方向性がみえてきます。

子どもたちは一度参加して楽しければ、次を楽しみにします。大人の都合で開催できなくなることがないように立ち上げる前にしっかり検討しましょう。

1 校区の活動を知ろう

堺市社会福祉協議会には、各区に区事務所が設置されています。区事務所を尋ね、校区にどういった活動やニーズがあるかヒアリングしましょう。

2 校区にある学校の様子を知ろう

堺市立小中学校は、学校のホームページで、日々の学校教育活動の様子や教育目標などを発信しています。参考にしましょう。

地域のニーズに寄り添う、さまざまな工夫

子ども食堂の16事例

モデル事業として行ったキッズカフェ９つの事例と
堺市内、他市でのさまざまな形態の子ども食堂を紹介

堺市モデル事業

堺市では、平成28年度に、家庭的な環境の中で食事をする機会の少ない子どもたちに対して、食事と居場所を提供する「子ども食堂」をモデル的に計9回開催しました。モデル実施を通して、利用者や実施施設へのヒアリングを行い、利用ニーズや運営課題、また地域資源や他市事例等の調査を行いました。

また、貧困の連鎖を止める仕組みとして、社会資源を巻き込んだ体制づくりを検討するために「円卓会議」を開催しました。

円卓会議メンバーは、児童福祉、生活保護、教育分野の市担当課、学識者や子ども食堂に食材を提供している企業や団体、医療機関、すでに子ども食堂を開催している実施主体など、多セクターが一堂に集まりました。

平成28年度は計4回開催し、食材提供者の立場からの課題整理や、すでに実施している子ども食堂の日常の報告や課題の共有などさまざまなテーマに沿って、参加者に話題を提供していただき、それを基に議論しました。

今後も継続的に実施し、セクターを越えた横の連携を図りながら、子どもたちの貧困の連鎖を止めるための取組を進めます。

円卓会議の様子

みんなおいでよ～！！

キッズカフェ にようこそ！

◎保護者のみなさまへ◎

●本日はお越しいただきありがとうございます。
今回は堺市子ども食堂モデル事業７回目（槇塚台では３回目）の開催となります。
『ごはん』を通して、保護者のみなさまも、子ども食堂について少し考えてみませんか？
ご意見等あれば、いつでも近くにいるスタッフに声をかけてくださいね。

●子ども食堂って？
『ごはん』を通じて、子どもと地域がつながる場をつくることによって、さみしさやしんどさを抱える子どもたちを地域で見守り、育てていく、地域ぐるみで子どもを大切にする垣根のない居場所のことです。

●堺市子ども食堂モデル事業って？
堺市では今年度、子ども食堂をモデル実施し、『ごはん』だけでなく生活上の相談や、子どもたちの学習を支援する場の本格実施に向けて、検討を行っています。
また簡単なアンケートに答えていただき、今後の子ども食堂を考えていくための参考にさせていただきます。お手数ですが、ご回答よろしくお願いいたします。

＊今日のお約束＊
1. 外では遊ばず、槇塚台レストラン内にて過ごすことにご協力ください。
その他、わからないことなどあればお気軽に近くのスタッフをお呼びください。

●本日のご協力いただいている方たち
槇塚台校区自治連合会
槇塚台レストラン ／ NPO法人槇塚台助け合いネットワーク
NPO法人 ASUの会
大阪いずみ市民生活協同組合
認定NPO法人ふーどばんく OSAKA
＊今回の開催のために、多数のボランティアさんにもご協力いただいております＊

堺市子ども食堂モデル事業
受託者／特定非営利活動法人 SEIN
特定非営利活動法人み・らいず

保護者の方へのキッズカフェ案内

共通の実施項目

参加費―子ども無料、大人300円

主な対象―小・中学生

広報―広報さかい、さかい☆HUGはぐメール、市ホームページ、Facebook「さかい子育て応援団」ページ

チラシ配布―該当校区小学校、区子育て支援課、ケースワーカー、相談員など関係機関

経費―ボランティア謝礼は交通費のみ

夜開催時の決まり―小学校３年までは保護者のお迎えを依頼

モデル事例

槇塚台レストラン①

平成28年
9月1日㈭
11:30～
14:30

NPO法人すまいるセンターが運営する昼はレストラン・夜は居酒屋と2つの顔を持つ「槇塚台レストラン」。

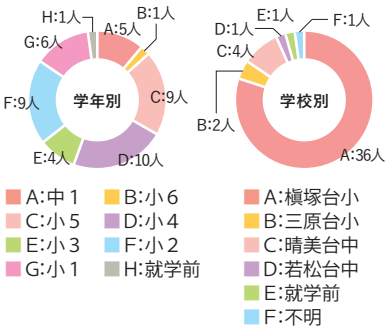
連合自治会長から、レストランの管理栄養士をご紹介いただき、子どもたちの変化がみられるか検証するために継続実施を決定。1回目は始業式後の昼食時に開催した。

・当日を振り返って
夏休み中で広報に苦戦したが自治会の呼び掛けで多くの人が集まり、食べ終わった子どもたちは近くの店舗にあるスペースで学習や遊びを楽しんだ。

●実施概要

・当日の参加人数
子ども45人、大人13人
合計58人

・立地情報
近隣センター内にあり、地域会館や小学校、認定こども園が隣接しているため、子どもたちが来やすい。



・小学校区
南区・槇塚台小学校区

・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	6人	槇塚台レストランスタッフ
受付	4人	スタッフ1人・自治会3人
配膳・食事サポート	3人	ボランティア
学習・遊び支援	7人	ボランティア

・提供品　きゅうり・コーン缶・トマト・ホタテ缶・鶏ミンチ・木綿豆腐・玉ねぎ
油揚げ・梨・アイスクリーム・調味料・ジュース・菓子

・メニュー　豆腐ハンバーグ定食

・経費項目
リユース食器レンタル、材料費、フリースペース使用料＋エアコン代、
ボランティア食事代、ボランティア謝礼（交通費）、
槇塚台レストランスタッフ人件費

モデル事例

槇塚台レストラン②

平成28年
11月15日㈫
16:00～
18:00

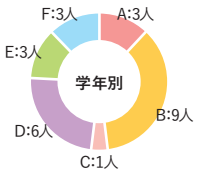
槇塚台レストランの2回目は平日夕食時に開催。参加人数が前回より少なかったため食後に場所の移動はせずにレストラン内で過ごした。

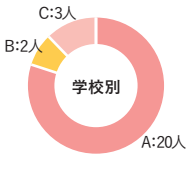
継続参加の子どもたちは同じ場所で同じスタッフの顔ぶれに安心し、カレーのおかわりをするなど少し慣れた様子がみられた。

・当日を振り返って
全員で「いただきます」ができたので大家族のような雰囲気だった。

●実施概要

・当日の参加人数
子ども25人、大人8人
合計33人





・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	5人	槇塚台レストランスタッフ
受付	3人	スタッフ1人・ボランティア2人
配膳・食事サポート	4人	ボランティア
学習・遊び支援	8人	スタッフ3人・ボランティア5人
保育サポート	2人	スタッフ

・提供品　肉・米・玉ねぎ・人参・にんにく・サーモンオイル漬け・レタス・トマト
きゅうり・オクラ・みかん・柿・ドレッシング・茶

・メニュー　カレー＆サラダ

・経費項目
リユース食器レンタル、材料費、ボランティア食事代、
ボランティア謝礼（交通費）、槇塚台レストランスタッフ人件費

モデル事例

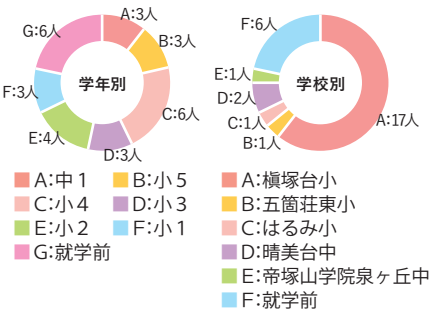
槇塚台レストラン③

平成29年
1月14日㊏
11:30～
14:30

槇塚台レストランの3回目はアンケートでも希望の多かった土曜昼食時に開催。
子どもたちは習い事の前後に友人たちとレストランに来るなど、一緒に食事を楽しんでいた。
前回までは保護者と離れられなかった子どもが、今回は1人で参加し、すごく楽しみにしていた様子で変化が見られた。

●実施概要

・当日の参加人数
子ども28人、大人11人
合計38人



・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	5人	槇塚台レストランスタッフ
受付	2人	スタッフ2人
配膳・食事サポート	6人	スタッフ3人・ボランティア3人
学習・遊び支援	6人	スタッフ3人・ボランティア3人

・提供品　豚肉、冷凍里芋、ピザ、豆乳、うどん出汁、人参、大根、小松菜、肉まん、グミ、茶、水

・メニュー　肉まん＆具だくさんのお味噌汁

・経費項目
リユース食器レンタル、フリースペース使用料＋エアコン代、槇塚台レストランスタッフ人件費、ボランティア食事代、ボランティア謝礼（交通費）

・当日を振り返って
子どもたちの変化を実感し、継続実施の大切さと、子どもたちが安心できるように同じメンバーでのサポートが必要だと感じた。

モデル事例

コミュニティカフェ「パンゲア」

平成28年
7月20日㊌
11:30～
13:30

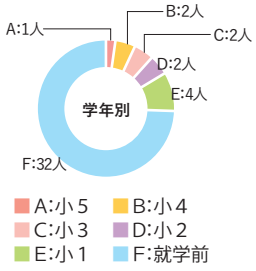
NPO法人SEINが運営し、子育て家庭や子ども向けイベントの開催実績があるコミュニティカフェで開催。
モデル事業として初めての開催で一学期の終業式後の昼食時に実施した。

●実施概要

・当日の参加人数
子ども43人、大人32人
合計75人

・立地情報
市小学校区は広く、北波止に住む子どもたちの通学路の途中にある。

・小学校区　堺区・市小学校区



※初回につき、学校別集計は行わず。

・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	5人	パンゲアスタッフ3人＋ボランティア2人
受付	3人	スタッフ1人・ボランティア2人
配膳・誘導	2人	ボランティア2人
学習・遊び支援・保育サポート	6人	スタッフ2人・ボランティア4人

・提供品　米・カレールー・じゃがいも・人参・玉ねぎ・レタス・キャベツ・プチトマト・きゅうり・ハム・水・ジュース・菓子

・メニュー　野菜たっぷりゴロゴロカレー

・経費項目
リユース食器レンタル、ボランティア謝礼（交通費）

・当日を振り返って
第1回ということもあり、注目度が高く、就学前の子どもたちとお母さんがたくさん参加した。周知時の対象者を記載することの重要性を感じた。

モデル事例

大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス

平成28年
8月30日㈫
11:00～
14:00

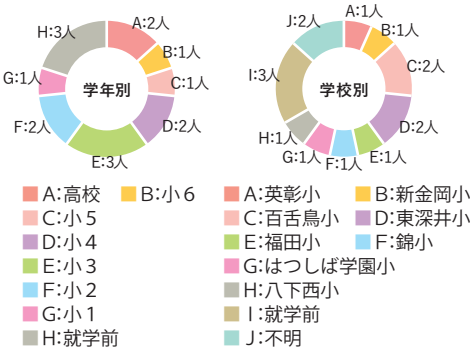
時期は夏休みの終盤。地域資源でもある大学内の食堂を使って運営できるかを検証。通常営業している食堂の中で開催し、スポーツ活動後の大学生がユニフォーム姿で利用している中、近い将来像として大学生を身近に感じることができた。食事後は食堂近くのフリースペースで学習支援などを2時間程行った。

●実施概要

・当日の参加人数
子ども15人、大人10人
合計25人

・立地情報
複数の校区に隣接し、自由に出入りできるため地域の方には身近な場所。

・小学校区
中区・東百舌鳥小学校区



・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	ー	大学食堂（生協）
受付	4人	スタッフ1人・ボランティア3人
配膳・誘導	11人	ボランティア11人
学習・遊び支援	9人	スタッフ6人・ボランティア3人

・提供品　ジュース・菓子

・メニュー　大学食堂で食べることができるごはん体験
（大学食堂の通常メニューを当日参加者が選択）

・経費項目
食堂への支払い、
ボランティア謝礼（交通費）

・当日を振り返って
通常営業中の食堂の一角を使用したので、誘導人数がたくさん必要だった。夏休み終盤の開催だったため、残っている宿題を持ってきていた。屋外での活動も行うことができたらよかった。

モデル事例

大阪ガス 堺ガスビル

平成28年
12月10日㈯
10:30～
14:30

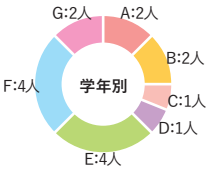
企業の社員食堂を活用し、企業の社会貢献の一環として取り組むことが可能かを検証。食堂は通常営業する中でスペースを区切って使用。
子どもたちに自分で作る楽しみを知ってもらおうと、施設内に併設されているクッキングスタジオを使用してお菓子を作る体験教室も実施。

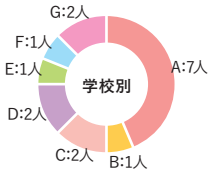
●実施概要

・当日の参加人数
子ども16人、大人8人
合計24人

・立地情報
堺駅から近く、看板も大きいため、わかりやすい場所。

・小学校区
堺区・市小学校区





・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	ー	大阪ガス社員食堂スタッフ
配膳サポート	2人	ボランティア2人
受付	3人	スタッフ1人＋ボランティア2人
お菓子教室サポート	2人	ボランティア2人
学習支援	10人	スタッフ1人＋ボランティア9人
アンケート	9人	ボランティア9人

・提供品　缶ジュース

・メニュー　社員食堂で食べることができるご飯体験
（スパニッシュオムレツ・唐揚げ・ご飯・お味噌汁）

・経費項目
食堂への支払い、雑費、ボランティア謝礼（交通費）

・当日を振り返って
宿題を持ってくる子どもは少なく、お絵かきやトランプ・ゲームなどで過ごす子どもが多かった。遊びと勉強スペースを区分する必要性を感じた。

モデル事例

森のキッチン

社会福祉法人コスモスが運営する市役所の地下食堂。森のキッチン自体が障害者の就労と社会参加を支援する場所でもあり、参加する子どもたちのアセスメントの面でも協力が得られた。

ニョッキやパフェづくりの体験、飾り付けやクラフトなどシーズンイベントの要素を盛り込んだ。

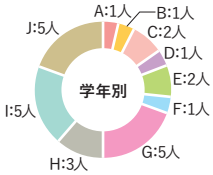
平成28年
10月24日㈪
16:30～
18:30

●実施概要

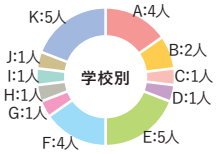
・当日の参加人数
子ども26人、大人11人
合計37人

・立地情報
南海高野線堺東駅から近く、市役所という公的な場所で誰もが訪れやすい。

・小学校区
堺区・熊野小学校区



A:高３　B:高１
C:中１　D:小６
E:小５　F:小４
G:小３　H:小２
I:小１　J:就学前



A:熊野小
B:日置荘小
C:錦小
D:はつしば学園小
E:大仙小
F:安井小
G:津久野中
H:若松台中
I:クラーク国際記念高
J:伯太高
K:就学前

・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	4人	森のキッチンスタッフ
受付	2人	スタッフ1人・ボランティア1人
配膳・誘導	6人	ボランティア6人
学習・遊び支援	6人	ボランティア6人

・提供品　紅茶・ココア・コーヒー・ジュース・フルーツ缶詰・さつまいも

・メニュー　きせつのごはん（サラダ・鶏肉料理・パスタ・ハンバーグ等）

・経費項目
食堂使用料、ボランティア謝礼（交通費）

・当日を振り返って
ニョッキを作る過程でさまざまな感想が飛び出し、食べることも楽しんでいた。また、飾り付けやクラフトでは個性の溢れる作品がみられた。

学生ボランティアが考えた子どもたちに必要なもの

子ども食堂は、たくさんの学生ボランティアの想いにも支えられています。モデル事業でかかわってくれた学生の声を紹介します。

子どもの安心を守る場所

子ども食堂は、早い段階から子どもの安心を守れる場所です。

子どもと一緒に食事をしたり、遊んだりする中で、普段の生活や学校のことを気軽に話してくれ、子どもの困っていることや必要なことが見えてきます。

京都大学大学院2年生
上野さん

一緒に食事する楽しさを知る場所

孤食が増えている時代、子ども食堂では、みんなと一緒にご飯を食べる楽しさを知ってもらうことができます。

子どもたちだけではなく、私たちも改めて一緒にご飯を食べる楽しさを感じました。誰かと一緒に過ごす時間というのが子どもたちにとっては貴重な経験になるのではないかと考えます。

帝塚山学院大学3年生
松永さん

モデル事例

デイサービスセンターつどい

社会福祉法人竹林会が運営するデイサービスセンター。地域資源の掘り起こしの1つとして、施設を本来の事業で利用していない時間帯に子ども食堂を実施できるかを検証。

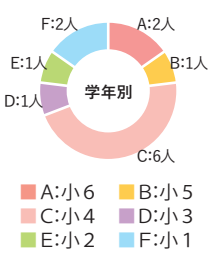
社会福祉協議会が各方面でコーディネートを行い、地域の自治会や学校などと連携して開催。

平成28年
11月25日㊎
16:00～
18:00

●実施概要

・当日の参加人数
子ども13人、大人0人
合計13人

・立地情報
住宅街の中にあり、小学校がすぐ近くなので子ども1人でも訪れやすい。



A:小6　B:小5
C:小4　D:小3
E:小2　F:小1

A:深井小

・小学校区　中区・深井小学校区

・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	5人	自治会
受付	1人	スタッフ1人
誘導	1人	スタッフ1人
学習・遊び支援	6人	スタッフ4人・ボランティア2人

・提供品　米・肉・じゃがいも・玉ねぎ・人参・ケーキバー・クッキー
食器

・メニュー　カレーライス

・経費項目
ボランティア謝礼（交通費）、材料費

・当日を振り返って
最初は静かに宿題に取り組んでいたが、食事時間からは楽しい雰囲気が生まれ「次はいつある？」と次回の開催を望んでいた。同じ小学校で縦のつながりができていた。

参考事例

継続実施の取材レポート
つどい食堂

継続実施の経緯

施設長の〝地域貢献したい〟〝継続した活動を展開したい〟という想いと、初回に参加した子どもたちの「今度いつある？」の声が後押しとなり、法人が主体となった継続実施が決定。

当日を振り返って

小学校に「申込箱」を設置して、チラシ配布や申込み受付等の協力を得ることができたことが大きな一歩となった。地域や学生の協力も大きい。子どもたちからボランティアさんへの感謝の気持ちを大切にし、「いただきます」「ごちそうさま」「ありがとう」のあいさつを実践。

回を重ねるごとに賑やかな雰囲気となり、地域での子どもたちの居場所になりつつあると感じる。

今後の課題・継続に向けて

今後も継続して実施していくためには地域からの人的な協力は大切。地域や学生等のボランティアに継続して協力してもらえるよう、丁寧に情報共有して取組を発信していくことが重要。

・開催日時　毎月第三水曜日 16:30～18:30

・メニュー　デイサービスで提供しているものと同じメニュー（2月：中華丼+副菜　3月：カレー+副菜）

・参加人数　2月9人／3月21人（小学校低・中学年が中心）

・広報　校区の小学校から配布/申込箱を設置

・実施主体　社会福祉法人竹林会

・役割分担（役割兼任あり）

役割	人数	担当内訳
食事担当	5人	地域のボランティア（あたためや盛り付けなど） （※調理はデイサービス提携業者が実施）
学習支援	5人	ボランティア（学生・元教員）

・提供品　米（地元企業）、漬物（企業）、クッキー（地域ボランティア）

・経費項目　食材費、光熱水費など

・周知用チラシ

モデル事例

ケア型として実施したモデル事業
森のキッチン

市役所地下食堂の「森のキッチン」で、家庭環境等で課題を抱えた子どもを対象とした子ども食堂が実施できないかと、ケア型の子ども食堂をモデル実施した。

実施に際して、市の関係部署間で趣旨を共有し、実施プログラムや周知方法等を検討。一般には公開せず、対象となる子どもや家庭に個別周知する方法で実施した。

●実施概要

・開催日時
平成29年1月18日、20日、24日、26日、27日　15:00～17:00

・広報　ケースワーカー・区子育て支援課などによる直接的な声掛け、チラシ配付

・開催までのプロセス
① 打合せ：森のキッチン・生活援護管理課・子ども相談所・子ども企画課
具体的な日時・運営方法・広報の仕方などを決定
② 説明会：広報を担うケースワーカー向けに説明会を開催
③ 実施　：5日開催し、3日間で3家族の参加があった。
→ケースワーカーや、教育センターの教育相談と連携し参加に至る。

・参加費　子ども無料・大人300円

・メニュー　当日営業と同じメニュー

・当日を振り返って
「楽しい」だけでなく、「困った」をサポートしていけるよう、スタッフと食事をともにしながらゆったりと過ごせる時間や空間の必要性を感じた。
また、月末に近い開催日ほどニーズが高いと感じた。

・周知用チラシ

ケア型の子ども食堂を運営している他市事例（松原市）
やんちゃま

開催までの経緯

始まりは、一人の教育委員から投げかけられた子どもの貧困問題。「子ども食堂をしてほしい」がきっかけです。

元々、NPO法人やんちゃまファミリーwithは、虐待防止のための仲間づくりから子育て親支援をしてきた24年間の実績があり、またそのころに「生活困窮者自立支援制度」の動きもあったことが、この動きをさらに加速させ、平成27年8月から、松原市社会福祉協議会と行政、教育委員と協働で、子ども食堂を立ち上げる準備を始めました。

準備期間に羽曳野の子ども食堂、ちるさぽに見学に行き、生活のしんどさやコミュニケーションが苦手な子どもたちを目の当たりにしました。

また、民生委員向けの勉強会に行き、生活保護の現状や社会のセーフティーネットにつなげるまでの苦悩を学んだ時に、「松原で子ども食堂をせねば！」と強く思うようになりました。

立ち上げの際の初期経費は、松原市商工会、松原市社会福祉協議会、大阪府社会福祉協議会、民間助成金から提供を受け、備品や食材、場所代などを準備しました。そして平成27年12月10日に第1回を開催し、その後毎月1回、今では毎月2回開催を続けています。

「ケア型の子ども食堂」を実施する際の二つの留意点

～モデル事業や他市事例から見えてきたこと～

①子どもや関係機関との信頼関係の構築

家庭環境に課題を抱えた子どもを支援することを目的にケア型の子ども食堂を開設したとしても、〝課題を抱えた子ども〟に子ども食堂を継続して利用してもらい、支援につなげていくことは容易ではありません。

まず、関係機関や支援者の協力を得て、表面的に見えにくい〝課題を抱えた子ども〟に子ども食堂の存在を知らせることから始まります。

モデル事業では、市関係部署と連携して、対象者への個別周知を行いました。

そして、二つの信頼関係が必要になります。一つは、子ども食堂を利用するようになった子どもとの間で、毎回、温かい雰囲気の中で少しずつ関係性を積み重ね、信頼関係を構築すること。もう一つは、子どもの状況を共有し、連携して子どもの支援に取り組む関係機関や支援者との信頼関係を構築すること。

そのためには、長期的な視点に立って子ども食堂を運営し、子どもとじっくり向き合うことができる専門性を持った人の存在が不可欠です。

②子どもと同時に保護者へのサポートが必要

「子どもの貧困」は、子どもだけが貧困なのではなく、家庭自体が貧困な状態にあります。その場合、子どもへのケアと同時に、保護者へのサポートがなければ問題の解決にはつながりません。

松原市の事例では、24年間にわたり子育て親支援を行ってきた実績を有し、関係機関とのネットワークや組織力を有するNPO法人がケア型の子ども食堂に取り組んでいます。

子どもの支援と同時に保護者のケアも視野に入れて取り組んでいくこと、あるいは、保護者支援を行っている機関と連携して取り組んでいくことが必要です。

これら留意点を踏まえると、ケア型の子ども食堂に取り組むためには、〝課題を抱えた子ども〟にすぐに届くものではないことを理解したうえで、専門的なスキルを持って日常的に関係機関と連携をとること、そして、長期的に子どもにかかわっていく覚悟を持つことが求められます。

参考事例

●実施概要

- **・開催場所**　こみゅにてぃーひろばNIKOニコ
- **・開催頻度**　月2回（長期休業中は毎週）
- **・参加費**　子ども無料、大人200円
- **・経費**　1回開催ごとに材料費、場所代1万5000円～
  助成金や寄付などで賄っている。
- **・主催**　NPO法人やんちゃまファミリーwith
- **・広報**　生活保護ケースワーカーや生活困窮者自立支援制度の相談支援員（等）が直接声をかけてチラシ配付
  （申込：ケースワーカー（等）→ 社協 → やんちゃま）
- **・関係機関と役割**

役割	担当内訳
企画	松原市社会福祉協議会・行政・商工会女性部有志・やんちゃまファミリーwith・教育委員（個人）
当日の運営	コミュニティソーシャルワーカー、学習支援のスタッフ、行政のボランティア・教員
食	地域のボランティア・社協職員・やんちゃまファミリーwith・商工会女性部有志
地域との連携	社協（新しく立ち上げる時）
送迎	子ども１人での参加の場合は、社協担当者が自宅まで送迎

堺市ですでに立ち上がっている子ども食堂

平成29年3月時点で把握している情報です。

堺市内でいち早く子ども食堂や居場所づくりを行っている団体の紹介です。

始めたきっかけはさまざまですが、共通しているのは、「この地域の子どもたちに居場所を作りたい」という思いと、地域の子どもの姿がしっかり見えているということです。日々の暮らし中で、出会う子どもたちに目を向け、継続的に実施していると、子ども食堂以外の日常の中で、「あー、子ども食堂の人や～！」と子どもの方から声をかけてくる関係になっているといいます。

また、継続して運営していくために、地元のスーパーマーケットや農作物を作っている人の協力を得て食材を確保したり、地域のボランティアの協力を得て人材を確保するなど、さまざまな工夫をして取り組んでいます。

子ども食堂のネットワークの必要性

大阪府内にある子ども食堂同士のネットワークでは、子ども食堂を開催する際に、スタッフがお互いの子ども食堂を手伝いに行くという取組をしています。また、ネットワークで、子ども食堂に関するシンポジウムを開催したり、日常的にお互いを励まし合ったり、校区だけではなく、校区外のつながりも大切にしています。

子どもとの関係性だけではなく、まず大人同士がつながりを作っていくことが、めざす社会につながる早道になるかもしれません。

参考事例

大仙西校区子ども食堂

「自分たちが子どものころ、まさに子ども食堂のような場があった。自分たちがしてもらっていたことを次世代の子どもたちにもつなげていきたい」と4人で立ち上げた。

学校や商店などに声かけし、協力を得られたことで、地域の活性化にもつながっていると感じている。

- **開催日時**
  毎月第3水曜日　17時30分～
- **参加費**
  子ども・大人　無料
- **参加人数**
  70人程度
- **運営人数（ボランティア含む）**
  10人程度
- **場所**
  部落解放同盟堺支部サロン
  （堺区協和町1丁1-23）
- **実施主体**
  大仙西校区こども食堂実行隊
- **問合先**
  072-295-6173

参考事例

るぴなす みんなの食堂（るぴなす 子ども食堂）

近隣センターにあるスーパーで、休日に朝からパンや弁当を買いにくる子どもたちを見かけて声を掛けたことがきっかけで立ち上げた。

行う中で老若男女問わず参加しやすいよう「子ども食堂」から「みんなの食堂」に改名。届けたい層に届けるためにも継続していくことが大切だと感じた。

- **開催日時**
  毎月第1土曜日　10時～14時
- **参加費**
  子ども100円・大人300円
- **参加人数**
  15人程度
- **運営人数（ボランティア含む）**
  3人程度
- **場所**
  みんなのマーケット　るぴなす
  （南区高倉台3-2-2／
  高倉台近隣センター内）
- **実施主体**
  社会福祉法人　ライフサポート協会
  みんなのマーケットるぴなす
- **問合先**
  072-295-6173

参考事例

はやおきして朝ごはんをたべよう会

校区のニーズを調べる中で、「食生活」「虫歯予防」「読書習慣」に焦点をあて、「生活習慣応援事業」として、朝ご飯の提供、歯磨き指導、登校前読書の取組を行っている。

校区福祉委員会など地域の方々の協力のもと、保健センターとも連携し、地域の世代間交流の場にもなっている。

- **開催日時**
  毎月第4金曜日　7時～8時
- **参加費**
  子ども・大人　100円
- **参加人数**
  35人程度
- **運営人数（ボランティア含む）**
  16人程度
- **場所**
  宮園校区地域会館（中区宮園町4-4）
- **実施主体**
  宮園校区まちづくり協議会
- **問合先**
  072-270-8181（中区役所企画総務課）

参考事例

子ども食堂「ともちゃん」

ある一人の児童を支えることから始まった子ども食堂。児童が友だちを連れて来て一緒に食べて行く中で、複数の子どもたちの居場所となっていった。近隣スーパーの「スーパーマルシゲ鳳店」とも連携し、食材提供などの寄付を受けている。

少人数だからこそ、子どもたちの声をじっくり聞くことができる。

- **開催日時**
  毎月第4金曜日 18時～20時30分
- **参加費**
  大人300円、子ども100円
- **参加人数**
  10人程度
- **運営人数（ボランティア含む）**
  6人程度
- **場所**
  西区鳳中町5丁168番地5
  「ともちゃん」内
- **実施主体**
  個人　芝辻 友一
- **問合先**
  072-268-2225

参考事例

みんな食堂「ハート食堂」

特別養護老人ホームハートピア堺が施設内で実施するみんなのための食堂。

子どもも高齢者もみんなでごはんを食べたいから「みんな食堂」。

学生やボランティアと一緒に勉強や遊び、おしゃべりなどしていきたいと思っている。

- **開催日時**
  年4回程度開催予定
- **参加費**
  子ども・大人　100円
- **参加人数**
  13人程度
- **運営人数（ボランティア含む）**
  8人程度
- **場所**
  特別養護老人ホーム ハートピア堺
  （堺区海山町3丁150-1）
- **実施主体**
  ハートピア堺相談支援室
- **問合先**
  072-222-8080

Check!

全国・関西の子ども食堂についてはこちらから

子ども食堂同士がネットワークを組み、
子ども食堂の開催に関しての情報発信を行っている
サイトがあります。

こども食堂ネットワーク（全国）
http://kodomoshokudou-network.com

こども食堂ネットワーク関西
http://kodomoshokudou-kansai.network

Check!

子どもの未来を考える国の動きはこちらから

子供の未来応援プロジェクト
http://www.kodomohinkon.go.jp

はじめる前に確認したい

準備チェックリスト

大切なことは「継続」
立ち上げ時に考えておくことをまとめました

✓	事前に決めること	ポイント
	頻度	最初は月1回ペースで始める。地域や子どもたちのニーズを踏まえて、余力があれば、頻度を増やす。
	値段	材料費の実費を徴収するところが多い。子どもがお手伝いしたら無料としている場合もある。
	時間帯	モデル事業のアンケートでは休日の昼間のニーズが高かった。全国的にみて夜の開催が多い。 夜の場合は、送迎のボランティアの確保（又は保護者による送迎）などルールを考えておく必要がある。
	事前申込の有無	事前申込が必要な子ども食堂が多い。事前に人数が分かると食材など無駄なく準備することができる。
	広報の仕方	チラシ、ポスター、ＳＮＳ、自治会の回覧板、連携機関からの声掛けなど。 開催2週間前までには告知しておきたい。
	定員	場所の広さ・スタッフ数・準備可能な食数などから定員を決める。
	当日のスタッフ数	本書：6ページ以降の「子ども食堂の16事例」参照 必要に応じて、本書：20ページを参照にボランティアの募集を行う。
	役割分担	本書：6ページ以降の「子ども食堂の16事例」参照 当日の流れを決めて、必要な役割を書き出しておく。
	メニュー	全国的に「カレー」が多い。お腹と心を満たす食事内容を心がけ、 最初から無理をしないメニューを決める。
	保険	本書：18ページの「ボランティア行事用保険」を参照

POINT

当日のタイムスケジュール

例）土曜日昼の開催

11:30
オープン
子どもたちと一緒に配膳する。

12:00
「いただきます」
「ごちそうさま」で食器を洗い場まで持っていく。このあと、宿題や遊びを楽しむ。

14:00

※タイムスケジュールはわかりやすいところに掲示してあると、運営側も子どもたちも安心して過ごせます。

POINT

開催までの流れ

1. **企画**
   準備チェックリストを確認しながら企画してみよう。
2. **募る**
   一緒に運営する仲間を募ろう。
3. **告知**
   2週間前までを目安に告知をしよう。
   ※学校や自治会などに協力をお願いするなら、少なくとも1ヵ月前には依頼しましょう。
4. **当日**
   役割分担をして運営しよう。

POINT

当日の備品

参考として運営の当日に必要だったものをリストにしました。開催場所に合わせて当日の流れをシミュレーション（想定）して必要なものを書き出しておくと安心です。

参考：備品リスト

- □ 釣り銭
- □ 問い合わせ用の電話
- □ 名札シール（スタッフ・参加者）
- □ 文房具
  （ペン・セロハンテープ・はさみなど）
- □ ウェットティッシュ
- □ テーブル布巾
- □ 雑巾
- □ ゴミ袋

必要であれば準備するもの

- □ アンケート
- □ カメラ（記録用）
- □ 趣旨説明文（保護者向け）
- □ チラシ（誘導や掲示に使用）
- □ 食券

事前申込有の場合

- □ 受付名簿

POINT

チラシに掲載する内容

モデル事業で配布していたチラシをもとに、記載する事項を書き出しました。チラシやポスターを作る際の参考にしてください。

項目

- ・タイトル（子ども食堂の名称）
- ・趣旨説明（簡単に）
- ・日時
- ・メニュー（アレルギー対応の有無）
- ・会場（わかりやすい地図）
- ・参加費
- ・定員
- ・対象年齢
- ・参加条件（必要な場合）
- ・持ち物（必要な場合）
- ・問合先
- ・申込先と締切日（事前申込有の場合）
- ・運営団体名

チラシ例

チラシづくり３つのポイント

① 子どもたちが「行きたい」と思えるようイメージしやすい絵や写真などを入れる。

② 開催日時は目立つように。

③ 開催場所が分かりにくい場合は、地図を載せて迷わないように配慮を！

経験者の声

スタッフ間では、朝のミーティングで趣旨を共有しました。「子どもたちが、楽しく緊張せず過ごせるようにしよう」と雰囲気をとても大切にしました。

堺市役所本館
地下１階食堂
「森のキッチン」店長

増田さん

Check!

当日の子どもたちへの対応

①分かりやすい動線を
入口からの動線を分かりやすく表示しましょう
（例：矢印やここで何をするかなどを書いた紙を貼る）

②食事の前の決まりごと
食事の前に必ず手洗い、うがいを促し、
手の消毒も行いましょう。

③自立を促す工夫を
配膳したものを取りに行く、片付けるは
できるだけ子どもたちが自分で行う環境を整えましょう。

あとは楽しく過ごせるように、子どもたちの声に耳を傾けてください。

安全・衛生第一！

食提供チェックリスト

子ども食堂を始めるうえで、衛生管理は最も重要。
誰もが安心してかかわることができるように、
ルールを決めて取り組みましょう。

POINT

衛生管理と調理設備について

すでに子ども食堂を運営している方に伺うと、

・保健所から食品衛生に関する指導や助言を受けている
・営業許可をとる
・調理従事者の一人が食品衛生責任者の資格をとる
・生野菜は出さず加熱したものしか出さない
・調理従事者は定期的に検便している

など、それぞれが工夫されています。

食品衛生の基本は〝まず手洗い〟です。

食中毒を絶対に起こさないよう、活動にかかわる皆さんで十分に注意して取り組みましょう。

必要な調理設備（例）

必要に応じて設備を整えましょう。

・シンク
・（シンク以外の）手洗い設備
・冷蔵庫
・調理台もしくは配膳台
・換気扇もしくは窓（窓の場合は網戸をつける）
・床や壁（防水性があり、清掃しやすく清潔に保てるもの）
・給湯器（お湯のでる蛇口）

食中毒予防の重要なポイント

❶ つけない　→　清潔に調理
❷ 増やさない　→　迅速に調理・温度管理
❸ やっつける　→　加熱して、死滅させる
❹ 持ち込まない　→　体調の悪い人は調理しない

食品の衛生管理について相談がある場合は、
堺市保健所食品衛生課　Tel. 072-222-9925
で助言を受けることができます。

POINT

ボランティア行事用保険

対象は、地域福祉活動やボランティア活動の一環として日本国内で行われる各種行事で子ども食堂も対象です。

登録方法などの詳細は、堺市社会福祉協議会にお問い合わせください。

POINT

食事を用意できる団体やお店と連携する

飲食店に調理を一任することも選択肢の一つです。子ども食堂で大事なことは食を通して集まってきた子どもたちと「向き合う時間」。それを無理なく確保できる体制を築きましょう。

子ども食堂を継続するためには、食事を無理のない方法で提供することも一つの手段です。

POINT

調理従事者の衛生管理

調理従事者のうちから衛生責任者を定め、食品衛生責任者の資格を取得しましょう。食品衛生責任者養成講習を受講すれば、資格を取得することができます。

POINT

食物アレルギー対応

昨今、食物アレルギーの子どもが増えています。子ども食堂として、その子どもたちに対応するかを決めておく必要があります。対応するなら、事前申込制とし、当日、除去食を用意する必要があります。対応しない場合は、チラシに明記しておきましょう。

Check!

当日、衛生管理の視点で用意するもの

- □ 薬用石鹸
- □ ペーパータオル
- □ エプロン
- □ マスク
- □ 三角巾やバンダナ
- □ ウェットティッシュ
- □ 台拭き
- □ ゴミ袋
- □ 消毒液

Check!

事前に用意しておきたいもの

- □ 食品衛生管理運営マニュアルの作成

  大阪府のサイトに「食品衛生管理運営マニュアル作成の手引き※」のページがあります。そこに管理運営マニュアル（モデルプラン）が公開されているので、それを参考に作成してください。

※大阪府/食品衛生管理運営マニュアル作成の手引きURL
http://www.pref.osaka.lg.jp/shokuhin/eisei-manyuaru/

POINT

認定NPO法人 ふーどばんくOSAKA

食品関連企業や量販店、農家、個人などから、賞味期限内でまだ食べられるのに商品として流通させられない食品の寄贈を受け、食べ物に困っている人や施設などに無償で配布する活動を行っています。

問合先
〒599-8101　堺市東区八下町1-122
大阪食品流通センター内
Tel. 072-258-2201　Fax. 072-275-7763

支援開始までの手続き

1. ふーどばんくOSAKAへ問い合わせをする
2. 窓口担当者と面談し、同意書を結ぶ
3. ふーどばんくOSAKAへ食品提供依頼をする
4. ふーどばんくOSAKAへ食材の受取に行く

※必ずしも、希望する食材が揃うわけではありません。
ただし、事前に依頼をしておくと、該当する食材があれば、取り置きしてくださいます。また、2週間に1回程度、ふーどばんくOSAKAに届いた食材の調査のためのメールまたはFAXが届き、必要であれば、事前に申し込みをし、確保していただくこともできます。

食材提供者からの声

現在※38ヶ所の子ども食堂運営団体等と契約しています。預かった食品を多くの子どもたちに食べていただき、スタッフ一同、感謝をしています。

※平成29年3月時点

ふーどばんくOSAKA
赤井さん

ご近所からの食材の寄付やお手伝いなど、みんなでつくるあたたかい活動に生協も共感します。地域の一員として、行政や社会福祉協議会と協働で取り組んでいます。

大阪いずみ市民生活協同組合
増田さん

助けてくれる仲間たち

ボランティアの力を生かす

子ども食堂では、ボランティアはさまざまな役割を担います。
モデル事業では、さまざまな年齢、経験のボランティアの方が参加しました。

ボランティア団体の問合先

子ども食堂の開催にあたって、ボランティアの力を借りたいという方は、
こちらの問合先も参考にしてみてください。

堺市社会福祉協議会　地域福祉課　ボランティア情報センター
Tel. 072-232-5420㈹　Fax. 072-221-7409　　堺市堺区南瓦町2-1 堺市総合福祉会館内

大阪府立大学　ボランティア・市民活動センターV-station
Tel. 072-254-7484　Fax. 072-254-6442　　堺市中区学園町1-1 大阪府立大学中百舌鳥キャンパスB12棟内

POINT

事前説明会

事前説明会では、子ども食堂にかかわるボランティアやスタッフが集まり、会場の使い方や役割分担、注意事項などを全員で共有します。

事前説明会の日に、子ども食堂当日にかかわる人が初めて顔を合わせることも少なくありません。

当日にうまく協力できるよう、スタッフ・ボランティア間の関係づくりも大切です。

会場の使い方や役割分担、注意事項などを全員で共有。

例

内容	具体的な実施内容	所要時間	準備物
アイスブレイク	ボランティアとスタッフ、またはボランティア同士の関係性を作る	15分	アイスブレイクに必要なもの（紙、ペンなど）
事業説明	子ども食堂を開催する目的と、子どもたちにどのようなことを提供するかを説明	20分	説明会資料
当日のスケジュールと役割分担	当日の全体の動きと、ボランティアやスタッフそれぞれの役割や動きを説明	20分	役割分担表
連絡事項	持ち物などの連絡事項	10分	

POINT

事前研修とその必要性

子ども食堂には、貧困だけでなくさまざまな課題を抱えた子どもたちも参加する可能性があります。食事を提供するだけでは課題解決にはつながらないことがあります。

課題を抱えた子どもたちの存在や子どもからのサインをキャッチすること、その子どもたちを適切なサポートや支援機関につなげることが必要です。そのために必要な基礎知識や福祉的な視点を学びます。

例

内容	具体的な実施内容
①オリエンテーション（15分）	
②さまざまな背景・特性をもつ子どもたち（60分）	障害特性（発達障害について）、虐待、愛着障害、貧困について
③子どもの人権（60分）	人権侵害の事例を学び、子どもの人権に関する理解を深める
④子どものほめ方・叱り方・伝え方（60分）	子どもの行動を観察し、その行動を分類し、それぞれの行動に対してのアプローチを理解する
⑤個人情報、マナーについて（30分）	個人情報の取り扱いについて、なぜマナーが必要なのか

※講師要件について

社会福祉士または児童福祉に関係する資格を有する者、もしくは何らかの課題を抱える子どもの支援に携わった経験を持つ者が望ましい。

POINT

当日行うこと

当日は、子ども食堂を始める前に「打ち合わせ」、子ども食堂が終わった後に「振り返り」を行います。

モデル事業では、それぞれ1時間程度の時間を設けましたが、子どもたちの人数や状況に応じて調整してください。特に、「振り返り」を行うことで、子どもたちの課題を共有するとともに、次回開催に向けた改善点を明確にすることができます。

始める前と終わった後に確認と共有の場を。

例

内容	具体的な実施内容	所要時間	準備物
打ち合わせ	・当日のスタッフ、ボランティアの自己紹介 ・当日の動きと場所の使い方の最終確認（トイレの場所、危険な場所、危険なものなどは全員で確認する） ・緊急対応者の確認 ・スタッフ、ボランティアの名札を作成する	30分	・名札 ・ペン ・役割分担表
準備	・食事をする場所と遊びのスペース、学習スペースを作る ＊食事をするところは、ある程度（10人以上）の人数が座れるところが望ましい	30分	・「遊びスペース」と「学習スペース」の立て札 ・スケジュール表
本番	子どもの動きに合わせて食事や学習のサポートを行う		室内でできる遊び道具（トランプやオセロなど）
振り返り	・当日の運営、子どもたちの様子について全体での共有を行う ・「困ったこと」と「アドバイス」に分けて付せんに記入する	終了後60分	・付せん ・ペン

見逃したくない
子どもからのサイン

子ども食堂はさまざまな子どもたちが利用します。
どんな子どもにとっても安心できる場所となるよう
まわりの大人ができることを考えていきましょう。

大人がアンテナを張る

子どもたちは、自分の気持ちや状況をうまく表現できないことがあります。

表情はニコニコしていても、それが本当の気持ちや状況と異なることもあります。清潔感がなくなってきている、人との距離感が近い、みんなと一緒に食事をとることができないなど、子どもが意図していないところからも、子どもたちの状況の変化などを読み取ることができます。

子ども食堂でも、このようなサインがみられることがあります。周りの大人がアンテナを張り、そのサインに気づくことができているかが大切です。

そこで、子どもたちがどのようにサインを発信するのかを想定し、身なり・行動、他者とのかかわり、食事場面、学習場面に分けて、それぞれの場面で考えられるサインをリスト化しました。

子どもたちのサインを察知したときは、サポートしてくれる専門機関等（26、27ページ参照）に相談してみてください。

子どものサインチェックリスト項目例

✓	大項目例	項目例
	身なり／行動	びくびくしている
		チックの症状が出ている
		過度に走り回ったりよじ登ったりする
		順番を待つのが難しい
		かんしゃくを起こしやすい
		時計が読めない
		髪の毛がべたついている
		においがある（入浴していない、服を洗っていない）
		散髪ができていない
		リストカットの跡がある
	他者とのかかわり	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい
		含みのある言葉や嫌味を言われても分からず、言葉どおりに受け止めてしまうことがある
		他の子どもとトラブルがある
		ゲームのルールを守るのが難しい
	食事場面	食行動の異常（過食・盗食）
		みんなと食事をとることができない

POINT

チェックリストの使い方

前述したように、子どもたちのサインは言葉だけではありません。行動や態度、身なりから発せられるメッセージもあります。子どもとのかかわりの中で、同年代の子どもと遊ぶことができない、表情の変化がみられない、清潔感のない身なりをしているといったことに気づくこともあるかと思います。

気になるサインを見つけたときは、ひとりで判断せずに、スタッフで話し合い、必要に応じて専門機関等に相談しましょう。

チェックをした後は、スタッフで話し合いを。

Column

子どもとのかかわり方で大切なことについて、専門家に聞きました。

いま、大人の私たちにできること

子どものニーズをキャッチする

子どもたちは今、経済的に貧困状態でなくても、学習の機会や社会的な経験に恵まれず、努力する力が育まれていなかったら、将来の貧困につながります。私たちは、「今見える貧困」への対策と「将来なるかもしれない貧困」への対策を考えていかなければなりません。

しかし、子どもたちは、自分の言葉で自分の状況を十分に説明することが困難です。また、子どもたちは自分の家しか知らないので、周囲の家庭と比較することもできません。子どもたちは「困っている」というSOSを発することが少ないので、何で困っているのかは、大人側が「見よう」としなければ見えません。子ども食堂においても、子どもたちの態度や表情などから、どんなニーズをもっているのかキャッチすることが大切です。

まず、ゆったりした空間づくりから

子どもたちは大人の姿や大人同士の関係をよく見ています。大人が急に子どもとの距離を縮めようとすると子どもたちは警戒します。まず大人がゆったりとした空間をつくり、それが子どもたちが安心して自然体で居られる空間となり、そこから子どもたちの自発的な活動が生まれていきます。子どもたちが自分を出せる場所があり、そこで仲間と過ごすという経験が将来の自立に向けた蓄えとなります。

子どもの貧困は6人に1人という現状です。地域で子どもたちを支える仕組みをつくっていかないと、これらの子どもたちを救うことはできません。皆が子どものニーズをキャッチする意識をもち、専門機関とも子ども食堂とも連携しながら、子どもたちを育んでいけたらと思います。

臨床発達心理士
精神保健福祉士
野田 満由美さん

NPO法人み・らいず理事。大学で教育心理学、大学院で障害児教育を学び、み・らいずでは、発達障害や不登校の子どもたちの支援に携わる。

地域の福祉活動をサポートする
堺市社会福祉協議会

社会福祉法人　堺市社会福祉協議会　地域福祉課　課長　所 正文

堺市内では地域のさまざまな個人・団体が、主体的に安心・安全なまちづくり活動や地域福祉活動に取り組んでおり、堺市社会福祉協議会ではその活動をサポートしています。

特に各小学校区においては〝校区福祉委員会〟が主となって多様な地域福祉活動が取り組まれ、子育て中の親子が遊びを通じて交流し、ボランティアが子育ての相談などを行う「子育てサロン」や、地域住民の〝居場所〟となる「ふれあい喫茶」などが開催されています。

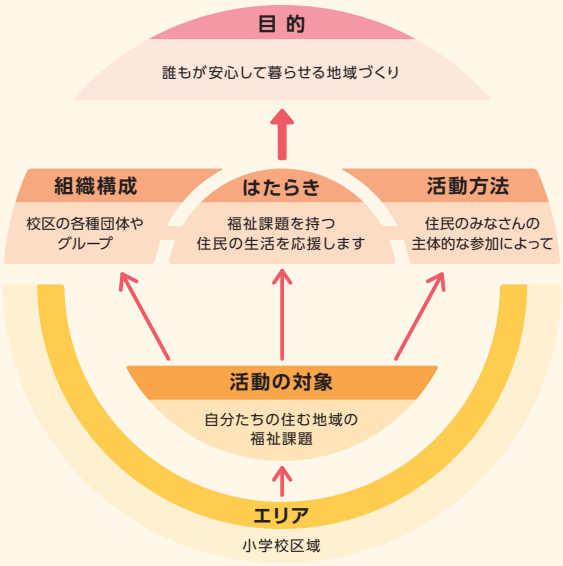
他にも自治会（連合自治会）、老人クラブなど、さまざまな地域組織が地域福祉活動に取り組んでいます。

これから地域で「子ども食堂」の開催を考えている方には、これらの地域活動とのつながりを意識して、地域のさまざまな組織・団体と協働・連携し、真に子どもが安心して集える「子ども食堂」という居場所づくりに取り組んでいただきたいと思います。

堺市社会福祉協議会は、主催団体と地域組織、ボランティアや食材の提供をしていただける企業・団体などの資源とのつなぎ役をさせていただきます。運営上何か「困ったな」と思ったとき、ぜひご活用ください。

堺市社会福祉協議会　地域福祉課
Tel. 072-232-5420㈹

校区福祉委員会について

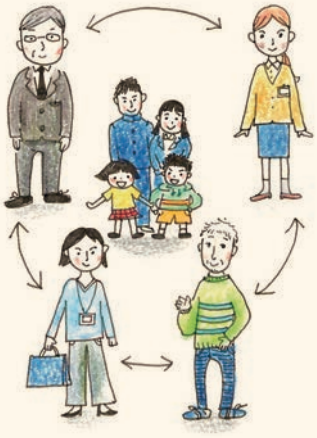


校区福祉委員会のメンバー構成

これからつくりたい未来

1 コミュニティの活性化・つながりの再構築

子どもを軸に、個々にかかわっている各機関や団体、住民がつながることで、地域コミュニティを再構築する。



2 コミュニティの中の子どもの居場所

地域の中に子どもたちが安心して集まれる場所が身近にあり、困った時に子ども食堂でつながった大人や、お兄さん、お姉さんに気軽に相談できるようになる。

3 子どもたちのSOSを早い段階で気づける場

子どもにとって、保護者・学校以外で大人とかかわる機会が増えることで、大人に信頼感を持ち、社会性や生活習慣を地域の大人たちから学ぶことができる。

またニートやひきこもりなどの困難を抱える前の早い段階で子どものSOSに気づき、必要な支援につなげることができる。

「子どもが幸せに暮らせる」温かいコミュニティをつくる

子どもは、どんな家庭に生まれたとしても、幸せになる権利があります。平等に教育を受け、将来に希望をもち、大人になっていける社会が当たり前にある状態が望ましいです。

ただ、今の社会は、6人に1人が貧困と言われているように、子どもを育てることを家庭だけに任すことが難しくなってきているのが現状です。家庭も子どもを育て、支えるために、とてもがんばっているのではないでしょうか。社会全体で、子どもを育て、支えていこうという気運を高め「地域で子どもを育てる」環境をもう一度、大人同士がつながりあうことで再構築していくチャンスです。

そのために、まずは子どもたちの〝お腹と心を満たすこと〟。〝ありのままを受け入れること〟。〝困ったらSOSを出してもいいんだよと伝え続けること〟。それを可能にできる居場所の一つが子ども食堂。コツコツと小さな積み重ねで、「子どもが幸せに暮らせる」温かいコミュニティを一緒に作りましょう。

子どものSOSつなぎ先一覧

子どもたちに専門的な支援の必要性を感じたら、
本人のニーズ、保護者のニーズは何なのか、
どんな支援が必要なのかを考えていきましょう。

各区の身近な相談窓口

名称	支援内容	連絡先
各区 子育て支援課	子どもと家庭に関する相談全般（養育困難、保健、障害、非行、不登校、ひとり親支援等）、女性相談等に対応。虐待の通報窓口。	各区役所内　以下の電話番号 堺　区　Tel. 072-228-7023 中　区　Tel. 072-270-0550 東　区　Tel. 072-287-8198 西　区　Tel. 072-343-5020 南　区　Tel. 072-290-1744 北　区　Tel. 072-258-6621 美原区　Tel. 072-341-6411
各区 生活援護課	生活保護の申請・相談等の窓口。	各区役所内　以下の電話番号 堺　区　Tel. 072-228-7498 中　区　Tel. 072-270-8191 東　区　Tel. 072-287-8110 西　区　Tel. 072-275-1911 南　区　Tel. 072-290-1810 北　区　Tel. 072-258-6751 美原区　Tel. 072-363-9315
各保健センター	こころや身体・子育て・発達全般の相談について、医師、精神保健福祉相談員、保健師が対応。	各保健センター内　以下の電話番号 堺　Tel. 072-238-0123 ちぬが丘　Tel. 072-241-6484 中　Tel. 072-270-8100 東　Tel. 072-287-8120 西　Tel. 072-271-2012 南　Tel. 072-293-1222 北　Tel. 072-258-6600 美原　Tel. 072-362-8681
各区 企画総務課 **（区教育・健全育成相談窓口）**	小・中学生の家庭教育や学校生活などの相談窓口。	各区役所内　以下の電話番号 堺　区　Tel. 072-228-0292 中　区　Tel. 072-270-8147 東　区　Tel. 072-287-8109 西　区　Tel. 072-343-5080 南　区　Tel. 072-290-1805 北　区　Tel. 072-258-6748 美原区　Tel. 072-340-5511

Check!

個人情報保護の観点

個人情報は、あらかじめ本人（保護者）の同意を得ずに、本来の利用目的の達成に必要な範囲を超えて取り扱うことは禁止されています。

子ども食堂に参加している子どもの個人情報についても、虐待通報など特別な場合を除いて、しっかり保護されなければなりません。

専門相談機関・支援事業など

名称	支援内容	連絡先
堺市子ども相談所	子どもと家庭に関する相談全般（養育困難、保健、障害、非行、保健、健全育成など）に対して児童福祉司等の専門スタッフが対応。里親相談にも対応。児童虐待相談に24時間対応。	堺区旭ヶ丘中町4-3-1 （市立健康福祉プラザ3階） Tel. 072-245-9197 Tel. 072-241-0066 ※虐待通報
堺市ユースサポートセンター	非行、不登校、ひきこもりの悩みをはじめ、子どもと若者にかかわる困難な問題の総合相談、就職や仕事復帰などの悩みにかかわる就労支援を無料で実施。39歳以下の方が対象。	堺区熊野町東4-4-19 （平成ビル6階） Tel. 072-229-3900
堺市発達障害者支援センター	発達障害に関する支援の拠点として、本人、家族、関係機関等からの相談に対応。	堺区旭ヶ丘中町4-3-1 （市立健康福祉プラザ3階） Tel. 072-275-8506
キッズサポートセンターさかい （堺市つどい・交流のひろば）	親子が集まる「ひろば」の中に、心理士などの専門スタッフが常駐し、子育てや子どもの発達に関する相談に対応。	堺区三国ヶ丘御幸通59 （堺タカシマヤ9階） Tel. 072-238-2050
母子家庭等就業・自立支援センター	ひとり親家庭の母・父や寡婦のための相談に対応。就労相談、ひとり親家庭相談、養育費・生活相談、法律相談を実施。	堺区南瓦町2-1 （堺市総合福祉会館2階） Tel. 072-224-7766
堺市配偶者暴力相談支援センター	専門相談員によるDV電話相談、迅速かつ安全な保護、被害者の自立生活の促進まで、関係機関と連携して実施。	Tel. 072-228-3943 Tel. 072-280-2526 ※夜間休日
子ども家庭支援センター 清心寮リーフ	子育てに関する不安や心配、子ども自身の悩みについての相談に対応。児童養護施設退所後のアフターケア事業も実施。	北区東上野芝町2-499 Tel. 072-252-3521
堺市こころの健康センター	ひきこもり、薬物依存、自死遺族に関する相談に精神保健士や心理士等の専門スタッフが対応。	ひきこもり相談 Tel. 072-241-0880 こころの電話相談 Tel. 072-243-5500
堺市生活・仕事応援センター 「すてっぷ・堺」	生活にお困りの方の相談に応じ、就労支援など自立に向けた支援を実施。	堺区南瓦町2-1 （堺市総合福祉会館4階） Tel. 072-225-5659
堺市学習と居場所づくり支援事業	生活保護・児童扶養手当を受給している世帯、市民税非課税世帯などの高校在学年齢の子どもを対象に、学習でき居場所となる場を提供。	生活援護管理課 Tel. 072-228-7412
堺市教育センター	小・中学生を対象に、子どもの学校生活や家庭教育、不登校、いじめ、発達障害等に関する相談に対応。不登校の子ども等を対象とした適応指導教室も実施。	ソフィア教育相談 Tel. 072-270-8121 ふれあい教育相談 Tel. 072-245-2527
大阪府教育センター	高校生を含む子どもを対象とした教育全般の電話相談等を実施。	Tel. 06-6607-7361 ※子どもから Tel. 06-6607-7362 ※保護者から

堺市子ども食堂ガイドライン

地域における食を通した子どもの居場所の作り方

発行元：堺市 子ども青少年育成部 子ども企画課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号　Tel. 072-228-7104　Fax. 072-228-7106

編集：特定非営利活動法人SEIN／特定非営利活動法人み・らいず

平成29年3月31日発行